



「ハロウィンを楽しみに待つかぼちゃのおうち」かわいいですね(^-^)

画家プロフィール：高橋聖大（たかはし しょうた）1990.7.13 松戸市生まれ。

2014年多摩美術大学絵画学科日本画専攻を卒業。

命の現像をテーマに優しい詩を読むような作品の製作に取り組んでいる。

看護小規模多機能型居宅介護とは???

「頑張って介護がしたいけど、家族の病状も心配。でも自分の生活もある。なんとか両立したい。」

「痰の吸引が頻回に必要だけど、デイサービスで外出を増やして気分転換したい。」

「今日は体調が悪くてデイサービスに行けない…急だけど体調の相談を訪問看護師にしたい。」

「病院ではなく自宅で最期を迎えさせたいけど、家族だけでは不安。なじみのショートステイ先でも可能な」

「なじみのヘルパーさんがいるショートステイがあったらいいのになあ」

・・・そんな思いにこたえられるサービスです。

① このサービスが創設した経緯

従来の訪問看護や訪問介護のサービスだけあっても、一日の限られた時間を「点」で支えるのが精一杯です。24時間365日、安全・安心な在宅療養を続けるためには、多様なサービスが不可欠です。時には、看護・介護の専門職の目の行き届くところで「通所」や「宿泊」ができ、さらに、療養上の不安や疑問を、看護師に気軽に相談できるサービスが在宅療養には必要です。そこで、従来の通いや訪問のサービスに、在宅療養の継続に必要なサービスを加えた、在宅療養者と家族を支える新たなサービスとして平成24年に「複合型サービス」という名称で開始しました。そして平成27年度に「看護小規模多機能型居宅介護」と名称が変更され、現在に至ります。

② サービスの特徴

従来の訪問介護、デイサービス、ショートステイサービスに、訪問看護の機能が加わったものです。

今まで利用の難しかった医療ニーズの高い在宅療養者が、24時間365日、顔なじみのスタッフにより、看護と介護のサービスを受けることができるという点が特徴です。

③ 幸樹会のサービスの特徴

当法人は設立当初より、この地域で医療事業を展開している医療法人社団鼎会（三和病院・三和クリニック）等と連携して医療と介護のネットワークを充実させ、地域の人々がより信頼できる地域ケアづくりに貢献したいと考えてきました。当予定地は、三和病院の目の前にあり、顔の見える連携を継続していくことができます。また今年度開設した当法人のあんず訪問看護ステーションは、すでに鼎会を含む松戸市の他の医療機関と連携させていただいております。当サービスが運営開始することで、この地域の医療と介護のネットワークは一層充実したものにになります。

④ 建物の概要

1階に、からたち薬局・幸樹会本部事務所・あんず訪問看護ステーション。2階に、看護小規模多機能型居宅介護施設【さんしょう】。

さらに屋上を活用し、家庭菜園等利用者さんが利用できるスペースと、ソーラーシステムの設置を予定しています。

建物の建設に当たっては、地盤をふまえて強固な基礎と自信に強い躯体の建物を建設します。災害時の生活インフラを確保し、近隣住民の方々とも日頃より連絡・調整を行い、災害対策・準備を徹底します。

あんず訪問看護ステーション所長挨拶

【大塚 かすみ】



先日、松戸市より看多機（看護小規模多機能型居宅介護の略）の採択を受けることができました。この計画に賛同し、協力、エールを送って下さった地域の皆様、関係各所の皆様、本当にありがとうございます。今私は、看

多機ができる喜びと、期待に応えなければいけないという責任感を重く重く感じています。

今年4月に開設した、あんず訪問看護ステーションで関わっている利用者様の中にも、看多機があったら、入院せずに済んだのに…、家に居たいと願う希望を叶えてあげられたのに…という事例が既にあり、需要は確実にあると思っています。このサービスは訪問看護と一体的に運営してこそ価値があると信じております。ただ看多機は、できて間もないサービスで、長い長い名前で呼び辛い…という欠点だけでなく、世間にはあまり知られていないという大きな問題があります。私は、このサービ

スの実践経験が2年あり、その経験を活かしつつ、この松戸の地域にあった運営ができるように、このサービスの内容や利点を、住民の方々だけでなく、関係医療機関・各種サービス事業所の皆様にわかりやすく説明していきます。そして皆様の意見を取り入れ、運営していけるように尽力していきたいと思っています。どんな看多機ができるか期待と夢を膨らませ、皆様のお知恵を拝借しながら、無事開設できるよう頑張っていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

幸樹会理事会では施設建設のために目標を1億円と設定し、募集しております。現在6124万円のご協力を頂いております。

別途の「基金募集要項」をご覧ください、ご協力の
意思やご質問がございましたら、幸樹会本部・職員
にお問い合わせいただければ幸いです

職員紹介

【からたち薬局 薬剤師 岩渕 裕】

からたち薬局に勤めて早一年が過ぎようとしています。八柱の町に下りるのは初めてで、昔から霊園が在る町と知っていましたがとにかくケヤキ並木が多く霊園の歴史が感じられます。霊園へは行った事がないので時間があれば1度くらいはいつてみようと思っています。最近、石屋さんから聞いた話では墓を建てる人が減っているようで個人で建てる人より樹木葬とか海へ散骨、宇宙へ撒くといろいろ変わってきた様で、家族に迷惑かけないように考えている人が増えてきているそうです。

人は生を受けてからその対極にある死に向かっているわけですので、限りある生の時間を皆さん大切にしていますか??

岩手山田へ

【幸樹会理事長 中野三代子】

9月20日、21日に、二年ぶりに岩手県山田町に行きました。以前から交流のある山田共生作業所（障害者作業所）を訪ねると、もう一つ「山田の船越湾での釣り」という目的です。山田町は、3.11東日本大震災で大きな被害があった町です。二年前に行った時は津波の爪痕が生々しく残り、町の方々も憔悴している様子でした。何か支援したい、復興をめざしている漁民組合の漁師の船で釣りはどうだろう、ということでその時も釣りをしま

した。船酔いに苦しみながらも船長さんに手伝ってもらってカレイを沢山釣りました。遠方からきた文字通り“酔狂な”釣り客を、地元の船がニコニコ見学に来ました。

今回はヒラメ釣りに挑戦。生きたイワシを餌に釣りをします。また船酔いをしてしまうのでは…、と恐れていましたが、実は私、この二年間で数回の船釣りを経験しまして、だんだん体が慣れてきたようで、今回は船酔いせず。高級魚のヒラメ、クロソイなどが釣れ、参加者6人で坊主なし。私は、小さなヒラメ、中くらいのクロソイ、大きなアイナメを釣りました。



三陸の海はとてもきれいで、あんな大津波があったとは信じられないほど美しい碧さをたたえていました。しかし現実には、津波により家を失い、仮設住宅で暮らす方々もまだ沢山いらっしゃいます。山田共生作業所では「おちゃっこの会」という茶話会を開いて、仮設住宅で暮らすお年寄りの支援をしていて、現在もその活動は続き、この9月には200回を迎えたそうです。訪問してのお茶会も合わせると400回を超えたそうです。色々なものを失って、悲嘆にくれている方々の心の支えになっていることでしょう。町は活気を取り戻しつつあるようにも見えました。ちょうどお祭りの期間で、神輿や装束を付けた子供たちが踊っているのを見かけました。山田湾沿いには、以前の堤防より数メートル高い垂直壁の無機質な堤防が設置されつつありました…。

釣りを終えて、遠野をへて新花巻へ戻る途中、大震災のとき、釜石東中学校の生徒が隣の鶴住居(うのすまい)小学校の生徒と共に上へ上へと逃げた道を通りました。釜石では防災専門家の片田敏孝群馬大学大学院教授が8年間にわたって市内の小中学生と津波に関する勉強を一緒にしてきていたそうです。あの3月11日、釜石東中学校で、先生の「逃げろ!」という叫びに、まずサッカー

部の生徒が逃げ出し、他の生徒も後に続いたそうです。

「津波が来るぞ！逃げるぞ！」と鶴住居小学校に向かって声をかけながら走り、普段から中学校・小学校合同で避難訓練をしていた小学生が、顔見知りのお姉ちゃん・お兄ちゃんが一生懸命走ってくるので、その後について逃げ、地域のお年寄りも小中学生についていき、鶴住居保育園の保育士さんも、子供たちを連れて坂道を登りはじめ、その子供たちを中学生が抱っこして上へ上へと逃げ、数十秒後にすぐ近くまで津波が到達するという危機一髪で、沢山の命が救われたそうです。実際に通ってみると、かなり平坦な道で、どこまで逃げれば津浪から逃れられるか、恐怖とともに判断も混乱しそうな道です。途中で止まらないで逃げ続けた中学生たちの判断の見事さが、リアルに感じられました。

一方、正規の避難所ではなく防災訓練時の“避難所”として使っていた低地の「地区防災センター」に避難してしまった結果、多数の住民が亡くなられた悲劇のあった地域も鶴住居の近くにあります。

自然災害などの異常事態時に、「正常性バイアス」といって自分にとって都合の悪い(怖い)情報を無視したり、過小評価したりしてしまうことがあるそうです。人の心は予期せぬ出来事に対して、ある程度鈍感にできていて、日々の生活の中で生じる予期せぬ変化や新しい事象に、心が過剰に反応して疲弊しないようできているそうです。しかし、「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」「まだ大丈夫」と正常性バイアスがかかり、逃げ遅れてしまうことがあると聞きます。そういうことが無いよう、自然災害などの時には心の緊急スイッチが入るようにしておきたいと思います。また、日頃から近隣の方々と顔の見えるおつきあいをし、非常時にも声をかけあって、助け合える関係づくりをしていきたいと思っています。

今回の旅には、訪問保育士として訪問しているお子さんのおばあちゃんと宮古で会えるというおまけもついていて、久しぶりにお会いできて嬉しかったです。会いに来てくださってありがとうございました。色々考えさせられ、感じ、触れ合えた二日間でした。

あんず畑の収穫！！

10月18日(日)(雨天時順延)

サツマイモ掘りを行います！！

*体調に合わせて、利用者さんの参加も検討しています。一緒にいかかですか？

定期勉強会

●前回報告 9月18日(金)実施
テーマ「地域ケアを考える」 講師 武井幸穂
【参加者感想】

「目の前の仕事だけでなく、国政や地域で起きていることに視野を広げる必要があると思った」

●次回学習会予定 テーマ「地域包括ケアと医療介護の倫理」

日時：10月16日(金)、18:30~19:30

場所：ハーレ・ヨシ101号

*参加希望申し込みや内容については、本部までお問い合わせください。(連絡先は下記記載)

三和病院研修参加報告

H27年9月24日(木) 18:30~20:35

「在宅医療連携支援研修会」が行われました。

講師：どうたれ内科診療所 堂垂 伸治 先生

国立長寿医療センター在宅医療支援病棟医長

三浦 久幸 先生

*様々な職種や所属の方々と一つの事例について、話し合うことができ、とても学びが多かったです。

ブログもあります

●からたち薬局

<http://ameblo.jp/karatachi-p/>

*「からたち薬局 ブログ」で検索できます

●あんず訪問看護ステーション

<http://ameblo.jp/anazu-kouju-kai/>

*「あんず訪問看護ステーション ブログ」で検索できます

今後ホームページも作成中です。出来上がりましたら、また広報させていただきます！！

一緒ににはたきませんか！？

看護師・薬剤師・ケアマネジャーの資格がある方お待ちしています☆

詳しくは、本部へお問い合わせ下さい。

連絡先 一般社団法人幸樹会本部 中野三代子

住所：千葉県松戸市河原塚 411-1-102

TEL : 047-701-7550

E-mail : miyoko-nakano@kouju-kai.or.jp

編集後記

先日吉岡さん宅(第4号「幸樹」掲載)にお邪魔いたしました。89歳というご年齢でありながら、お会いする度こちらの方がたくさんのエネルギーをいただきます。この間、吉岡さんの他にも亡くなった利用者さんのご家族と、お話をする機会を頂きました。人生の先輩方から学ぶことは本当に多く、その学びを日々の訪問、これからできる施設に活かしていくことが、恩返しになればと感じています。今後ともご指導をよろしくお願いいたします(奥村万里子)